

宇都宮市立田原西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<p>・書く力、読む力を育てるための教科領域等を超えた横断的指導の充実</p>	<p>・国語で、「読み、考え、伝え合い、まとめ、書く」授業を展開して、各学年で身に付けておくべき基礎事項を丁寧に学ばせ、他教科領域等で、活用する機会を設けている。</p> <p>・学習情報室として図書室の活用を活性化したり、国語辞典や図鑑を用いて分からないことや気になることを調べたりするよう支援している。また、「家読」や多読イベントなど楽しく本に触れる取組を増やし始めた。</p> <p>・学校生活の全ての活動を「書く」機会ととらえて、繰り返し書かせることで、文章表記に対する抵抗感を軽減していく。</p>	<p>・「書くこと」の領域について、4年は市の平均点を大きく上回り、5年は同等、6年は大きく下回った。記述式回答問題の平均点も、4学年は市を大きく上回った。発達段階の早いうちに、文章表記に慣れさせることの重要性を確認できた。</p> <p>・「読むこと」の領域について、4・5年は市の平均点と同等、6年は大きく下回った。「読むこと」についても、発達段階の早いうちに基本事項をしっかりと身に付けさせておくことで、成果が表れやすいことが確認できた。</p> <p>・記述式問題について、無回答が一定数ある。意欲の低さと読みの遅さが原因と思われる。引き続き、粘り強く取り組もうとする態度と音読や速読の訓練を行っていく必要がある。</p>
<p>・深い学びに導く、視覚的・対話的な授業の工夫</p>	<p>・学びの過程を理解しやすい板書を示して、授業を可視化している。また、それらのデータを蓄積し教師間で共有している。</p> <p>・学びを構築するノートの使わせ方を指導している。また、それらをまとめたり掲示したりし、児童や教師で共有し、保護者にも情報提供している。</p> <p>・意見の共有・交流の場で、児童の思考や言葉をつなぐ教師のかかわり方を工夫している。</p>	<p>・「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」の肯定的回答が、学校全体で81.7%と昨年度を6.8%上回った。</p> <p>・「自分の考えを、根拠(理由)をあげながら話すことができる(3年生以上調べ)」の肯定的回答が、64.8%と昨年度を6.2%上回った。</p> <p>・国語の思考・判断・表現の観点について、4・5年は市の平均点とほぼ同等、6年は大きく下回った。</p>

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

<p>・上記のように、「読むこと」領域の基本事項が身に付き始めてきたことや「書くこと」に慣れてきたことは、重点的に取り組んできた成果と考え、今後さらに、各学年で身に付けておくべき学習内容を系統的に洗い出し、確実に身に付けさせ、それを他教科・領域等で活用できるよう意図的に場を設けるよう継続する。</p> <p>・「勉強が好き」の肯定的回答が、昨年度を4%上回った。今後も、単元で身に付けさせたい資質や能力を明らかにして宇都宮モデルを活用した授業を展開するとともに、児童の興味を引き出す導入や「学ばずにはいられない」という思いを生かし、主体的に授業に臨もうとするようなしなやかや発問等を工夫し、主体的に粘り強く学習する意識を高めたい。</p> <p>・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」の肯定的回答が、49.6%と半数を下回った。学校においては、学びを構築するノートづくりができるような板書を工夫し、ノートづくりの具体的な指導を行う。そして、家庭学習については、発達の段階に応じて、今何をすべきかが分かるように課題設定を学校で行うなどの方策を取り、書く必要性のある授業のノートが、家庭学習に必要な情報源となり、自主学習ノートでの復習へとつながるように支援していく。また教師は、児童の努力に対しきめ細かく応え、褒め励まし認める書き込みをしていく。</p>
